

没後30年

宇野千代展

恋と創作の若き日々



世田谷文学館 前期コレクション展

2026 4/18 SAT > 9/6 SUN

10:00 — 18:00
(展覧会入場、ミュージアムショップは17:30まで)

休館日
毎週月曜日(ただし月曜が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)

入場料
一般220円/高校・大学生170円/65歳以上、小・中学生110円

主催:世田谷区・公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館 後援:世田谷区教育委員会 特別協力:株式会社 宇野千代
※団体料金、購書者割引あり。詳細はHPをご覧ください。※企画展開催期間中は企画展チケットの半券でご覧いただけます。
※世田谷区内在住・在学の小中学生については土、日、祝日、夏休み期間のコレクション展観覧料は無料となります。
※5/17(日)は国際博物館の日(5/18)を記念して無料、7/3(金)は65歳以上無料

2026 4/18 SAT > 9/6 SUN

没後30年

宇野千代展

恋と創作の若き日々

『色ざんげ』『おはん』『生きて行く私』など、現代を生きる私たちの道標ともなる数々の名作を残した作家・宇野千代（うのちよ、1897.1.19 - 1996.）。

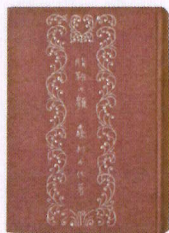
若き日には、画家の東郷青児とともに世田谷の淡島に「コルビジエ風」のアトリエ付きの瀟洒な家を建てて暮らしました。その作家としての人生は、尾崎士郎、東郷青児、北原武夫らとの数々の恋や、画家や詩人、評論家など各界で活躍する人々との華麗な交友関係の中で大きく花開いていきました。

本年度のコレクション展は、2023年度に世田谷文学館に寄贈された宇野千代旧蔵の新資料を前期・後期に分け、年間を通して紹介します。前期となる本展では、宇野の岩国での少女時代から、「おはん」の連載が始まる5歳ごろまでの資料を中心に展示します。

「色ざんげ」の自筆原稿をはじめ、東郷青児から宇野千代に宛てた書簡、北原との中国旅行で記された日記、日本初のファッション誌として記録的な売り上げを見せた雑誌「スタイル」のほか、宇野のデザインによる旧蔵の着物など、多彩な資料を一堂に展示。世田谷文学館の新たなコレクションの核となる資料を総覧いたします。

小説家としての出発、時代を先駆けた装いや暮らしぶりを通して、恋と創作に生きた若き日の宇野千代の姿に迫ります。強く、華やかに、しなやかに生きた宇野千代の世界をお楽しみください。

世田谷文学館 前期コレクション展



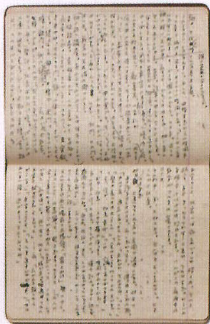
1



2



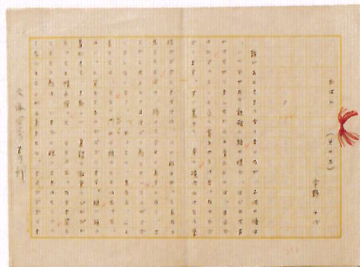
3



4



5



6



7

1 『脂粉の顔』(1923年 改造社)：宇野のデビュー作。最初の夫の姓「藤村千代」名義で刊行された／2 宇野千代・東郷青児 旧蔵コーヒーカップセット：世田谷・淡島の新居で使用していたドイツ製のコーヒーカップセット
3 宇野千代 旧蔵おしろい入れ：東郷青児の情死未遂事件の相手のものであったが宇野はこれを使い続けた／4 宇野千代 日記：1941年の中国旅行中の内容を含む日記／5 「スタイル」第1期創刊号(1936年6月)：日本初のファッション誌。題字は東郷青児、表紙はエコー・ド・パリの寵児と呼ばれた画家、藤田嗣治が手掛けた／6 宇野千代「おはん(その三)」自筆原稿：「文体」第4号(1949年7月10日文体社)掲載。「おはん」は宇野の代表作の一つとなる／7 北原武夫との挙式写真：1939年4月1日、帝国ホテルにて。4月1日はふたりが初めて出会った日だという
*すべて世田谷文学館蔵

同時開催

ムットーニコレクション

上演予定作品 (開館時間中毎時30分から上演)
「猫町」「スピリット・オブ・ソング」「アトラスの回想」「サーカス」
※ご入場にはコレクション展チケットが必要です。

関連イベント

宇野千代の命日「薄桜忌」を記念して、本展の関連イベントを予定しています。日程・内容など詳細が決まり次第、当館ホームページにてお知らせいたします。

後期コレクション展

「宇野千代展—わたしと生きて行く私—」

2026年9月26日(土)～2027年3月28日(日)
*後期の展覧会では、1947年から1996年までの後半生をご紹介します。

同時開催企画展

1階文学サロン (シーズン展示)
「本が世界、世界が本。」松岡正剛 千夜千冊の贈りもの
2026年4月18日(土)～6月14日(日)

2階展示室
やなせたかし展 人生はよろこばせごっこ
2026年6月30日(火)～9月6日(日)

相互協力企画 日本近代文学館

「宇野千代展—100年の旅人—」
2026年9月12日(土)～11月21日(土)開催予定

【表面写真】雑誌「スタイル」を編集していた頃の宇野千代(1939年)
グラフィックデザイン：西川奈央

世田谷文学館

SETAGAYA LITERARY MUSEUM

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10

TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120 <https://www.setabun.or.jp>



交通案内

京王線「芦花公園」駅
南口より徒歩5分
「千歳烏山」駅南口より
徒歩15分
小田急線「千歳船橋」駅より京王バス
(千歳烏山駅行)利用「芦花恒春園」下車
徒歩5分

ご来館にあたってのお願い

- 駐車場は台数が限られます。
- 公共交通機関のご利用をお願いします。
- ご来館前に当館ウェブサイトをご確認ください。